

## 「人と防災未来センター」利用者の状況

阪神淡路大震災の経験を語り継ぎ、甚大な被害をこうむって得た貴重な教訓を未来に活かさなければなりません。世界中の人々が、災害にどう対処すれば良いのか、日頃からの心構え、市民をはじめ地域の協力や支援、行政政策のあり方などを学ぶことができる「人と防災未来センター」が三宮の東、激甚被災の地、復興のまちHAT神戸に2002年オープン。

### (1) 平成14年開館～28年度

#### [平成14～20年度]

区 分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	小計(H14-20)
利用者数(人)	256,789	532,173	540,622	531,485	520,016	525,624	513,092	3,419,801
西館(旧防災未来館)	256,789	349,584	362,409	363,516	359,571	358,163	351,263	2,401,295
東館(旧ひと未来館)	-	182,589	178,213	167,969	160,445	167,461	161,829	1,018,506
1日平均利用者数(人)	870	1,700	1,733	1,703	1,646	1,679	1,639	1,573
西館(旧防災未来館)	870	1,117	1,162	1,165	1,138	1,144	1,122	1,105
東館(旧ひと未来館)	-	583	571	538	508	535	517	468
営業日数(日)	295	313	312	312	316	313	313	2,174

#### [平成21～27年度]

区 分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	小計(H21-27)
利用者数(人)	341,010	502,865	588,731	490,131	509,206	507,714	507,986	3,447,643
有料展示プログラム	243,134	292,092	342,507	286,915	271,426	265,999	268,057	1,971,130
無料オプションプログラム	97,876	210,773	246,224	203,216	237,780	241,715	238,929	1,476,513
1日平均利用者数(人)	1,111	1,612	1,881	1,566	1,637	1,627	1,628	1,581
有料展示プログラム	792	936	1,094	917	873	853	862	904
無料オプションプログラム	319	676	787	649	765	775	766	677
営業日数(日)	307	312	313	313	311	312	312	2,180

#### [平成28年度]

区 分	28年度	累計(H14-28)
利用者数(人)	504,410	7,371,854
有料展示プログラム	250,712	-
無料オプションプログラム	253,698	-
1日平均利用者数(人)	1,622	1,580
有料展示プログラム	806	-
無料オプションプログラム	816	-
営業日数(日)	311	4,665

### (2) 利用者の状況(平成28年度)

利用者総数 504,410人(1日平均 1,622人)(うち有料展示プログラムは250,712人、無

料・オプションプログラム 253, 698 人)

※開設以来の利用者総数は、平成 14 年以来、平成 28 年度末で、延べ 7, 371, 854 人に達しました。

利用者多数月 ①11 月、②10 月、③1 月、④5 月、⑤2 月、⑥9 月、⑦12 月、⑧6 月、⑨8 月……  
(4 月 25,577 47,552 38,481 30,454 37,918 40,699 61,686 62,086 39,633 49,861  
41,748 28,715 計 504,410 人)

## 観覧者の状況

(有料展示利用) 大人 37.9%、高校・大学生 10.8%、小・中学校 51.3%。 団体 66.4%、個人 33.6%

- ・平成 28 年度は、「団体予約」、「個人」別では、「団体予約」が 66.4%となっている。
- ・「大人」、「高校・大学生」、「小・中学生等」別では、「小・中学生等」が 51.3%で約半数を占め、「高校・大学生」を含めると全体の 62.1%となっている。
- ・平成 28 年度は例年と同様に、修学旅行等のシーズンである 5～6 月及び 10～11 月が多い。

(有料団体) 県内 21.1%、県外 78.9%。

①近畿 42.4%、②海外 12.5%、③東海・北陸 12.1%、④中国 9.2%、⑤四国 8.5%、⑥九州・沖縄 6.9%、⑦関東 6.5%、⑧北海道・東北 1.8%、

利用者の都道府県

(有料団体) ①兵庫県、②海外、③大阪府、④愛知県、⑤岡山県、⑥京都府、⑦広島県、⑧高知県、⑨福岡県、⑩和歌山県……

海外からの来観者

(団体予約) 20, 809 人(対前年度 90.4%)。①ベトナム 7, 056 人、②韓国 3, 780 人、③中国 2, 471 人、④マレーシア 1, 429 人、⑤タイ 852 人、⑥インドネシア 809 人、⑦台湾 320 人……

・平成 28 年度の海外からの団体予約観覧者は 20,809 人で、前年度(平成 27 年度)に比べ 90.4%となっている。・海外のうち韓国、台湾及び中国からの観覧者が、従来は半数以上を占めていたが、平成 28 年度は前年度と同様に約 3 割で、その他の国が 14,238 人(ベトナム 7,056 人、マレーシア 1,329 人、タイ 852 人、インドネシア 809 人ほか)となっている。

- ・平成 28 年度は、団体種類別では「学校」が 61.3%を占めている。
- ・「学校」の中では「中学校」が半数を超え、月別では 5 月、10～11 月が多くなっている。

## 来館者アンケートの概要

(1) 利用者の世代

「10 代」の来館者が約 30%で最も多く、次いで「20 代」の来館者が多かった。

(2) 性別

男女比では、男性の来館者の方が多かった。年代別では、「10 代」・「70 歳以上」は、女性が多く、その他の年代は男性が多かった。

(3) 職業別

学生 43.7%、民間就業者 17.6%、地域団体等 12.2%、無職その他 11.5%、学校教員 4.7%、公務員(教員以外) 3.4%

#### (4) 来館行動

全体：「団体で」訪れた来館者が最も多かった（7割以上）。

年代別：全ての年代において、「団体で」訪れた来館者が最も多かった。

性別：男女ともに「団体で」訪れた来館者が最も多く、次いで「家族と」の来館者が多かった。

住所地別：全地域において、「団体で」訪れた来館者が最も多かったが、「神戸市内」「兵庫県内」在住者の「団体で」の来館率は、他の住所地に比べて低かった。職業等別：「団体で」訪れた来館者が多かった。

「団体で」訪れた来館者中、「予約をした」と回答した来館者は、「予約しなかった」と回答した来館者の倍近くであった

来館回数は例年同様、「はじめて」の来館者が最も多かった。

交通手段は例年同様、「バス」での来館が最も多かった。次いで「車」での来館が多かった

#### (5) 認知手段

年代別：「10代」「20代・30代」は「学校・先生からの紹介」で、「40代・50代」は「友人・知人・家族からの紹介（口コミ）」で、「60代・70歳以上」は「各種団体から」、知ったという回答が最も多かった。住所地別：「神戸市内」は「学校・先生からの紹介」・「友人・知人・家族からの紹介（口コミ）」で、「兵庫県内」は「友人・知人・家族からの紹介（口コミ）」で、「近畿圏内」は「学校・先生からの紹介」で、「その他の地域」は「各種団体から」、知ったという回答が最も多かった。職業等別：「学生」「学校教員」は「学校・先生からの紹介」、「民間就業者」は「ホームページ」・「友人・知人・家族からの紹介（口コミ）」・「旅行代理店」、「公務員（教員以外）」は「友人・知人・家族からの紹介（口コミ）」で、「地域団体等」「無職・その他」は「各種団体から」、知ったという回答が最も多かった。

#### (6) 来館動機

全体：例年同様、「阪神・淡路大震災の状況を知りたくて」が最も多く、次いで「学校行事で」、「防災に関する情報を知りたくて」が多かった。

年代別：「10代」は「学校行事で」、「20代・30代」「60代・70歳以上」は「阪神・淡路大震災の状況を知りたくて」、「40代・50代」は「防災に関する情報を知りたくて」が最も多かった。

住所地別：すべての地域で、「阪神・淡路大震災の状況を知りたくて」が最も多かったが、「兵庫県内」は「防災に関する情報を知りたくて」も同率で多かった。

職業等別：「学生」「民間就業者」「学校教員」「地域団体等」は、「阪神・淡路大震災の状況を知りたくて」が、「公務員（教員以外）」は、「阪神・淡路大震災の状況を知りたくて」「防災に関する情報を知りたくて」「会社・団体の行事で」が、「無職・その他」は「阪神・淡路大震災の状況を知りたくて」が最も多かった

「その他」回答（主なもの）：「南海トラフ地震に備えて」「研究・社会見学のため」「教科書に書いてあったから」「最新情報の収集」「子供に伝えるため」

#### (7) 満足度

約6割が満足系、約3割がどちらとも。

（満足 41.9%、やや満足 19.4%、どちらとも言えない 29.0%、あまり満足しない 6.5%、満足しない 3.2%）

#### (8) 印象

約9割の来館者が、当館への再訪について肯定的な回答をした。

(是非来たい 46.2%、機会があれば 46.6%、どちらでもない 5.9%、どちらかといえない 0.8%、しない 0.4%)

ここを管理運営しているのは、**公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構**です。私が勤めていたこの研究機構では、人と防災未来センターのほか、兵庫県こころのケアセンター（トラウマ・PTSDなどのこころのケアに関する調査研究、研修、相談・診察、情報発信、普及啓蒙等を行っています）も管理運営しており、両センターとの連携による政策研究を行うシンクタンクでもあります。（写真右は、震災で倒壊した阪神高速道路の橋脚）

阪神淡路大震災は、郷土の私たちにそれぞれのドラマを内包させている一大エポックなのです。その史実を世界に後世に伝える「人と防災未来センター」に、みなさまも是非一度、また友人知人たちを案内して観覧に来て下さい。

（2009年6月～2018年8月）